

論文

英単語の習得と意味 — 訳語よりも経験

テルキ デイブ

English Vocabulary Acquisition and Meaning —
Experience Rather than Japanese Equivalent

Dave Telke

1. 英単語を押さえよう

1-1. 知らない単語が出てきたときは

英語の文書を読んでいるとき、知らない単語が出てきたときはどうしますか。もちろん、その場ですぐ辞書を引くでしょうね。だって、その文章を構成する単語をすべて「しっかり押さえておかないことには、全体を眺めることなどではしない」[参考文献① p. 2] とは当然。またその場で暗記して覚えておけば、なおさら効率的だと、常識でしょう。

しかし、日本でのこの常識は実は一つの意見に過ぎないのです。アメリカで大学1～2年生だったとき、私は初めての外国語としてドイツ語を学ぶことになりましたが、担当の先生の言葉をよく覚えています。「知らない単語が出て、すぐ辞書を引くな」と。つまり、辞書に頼るよりも、前後関係や話全体からその語の意味をまず自分で考えなさいというのです。よく使われる大事な単語なら、読んでいるうちに何回も出てくるからすぐ

わかるし、あまり使わない単語だと、引いてもまた忘れてしまうだけです。

これら二つの意見は読み方や単語の習得方法についてほぼ反対のことを言っていますが、要するに外国語教育の目的の違いを反映していると考えられます。

1-2. 外国語教育の目的

今は中学1年から始まる日本の英語教育は、もちろん生徒がある程度英語ができるようになれば越したことはないですが、これがメインではありません。第一の目的は試験。入学のための試験や成績のための試験、卒業するための試験など、就職も出世もこうした試験にかかっています。そうした試験の大事な一つが英語。そして「英語の成績はほぼ正確に単語の力に比例するといっても、いい過ぎではないのだ」[① p. 2] というのです。つまり、いつどの単語が試験に出るかわからないから、数が勝負なのです。「試験に出るから覚えとけ」とは、よく教室で聞くセリフです。

この場合の「覚えとけ」というのは、辞書や教科書に書かれたことや先生の言うことがそのまま試験に出るから、いい成績をとりたければそのまま暗記し、試験にはそのまま繰り返すがよい、ということです。単語の意味などを自分で考えたりすると、もしかすると間違うかもしれないという不安もあり、あるいは試験では×となる恐れもあるので、そうしない方が賢明ですよ。やはり知らない単語が出たときは、すぐその場で辞書を引いて暗記するのがいちばんうまくいくやり方です。それが今読んでいる英文を理解するためだけではなく、試験によって「人格を測る」日本の教育制度をスムーズに通って抜けていくためでもあり、日本社会における自分の将来のためでもあります。

一方、アメリカでは「人格を養う」という理念のもとで設置された教育制度があります。大学3年から専攻を選んで専門的勉強が始まりますが、それまで、高校の三年間に続いて大学1～2年は、学生が人文・社会・自然科学・数学・芸術など、様々な分野から単位を取り、それぞれの分野の

良さを味わうという仕組みになっています。私はドイツ語を学んだのもこの制度の中で、高校の時は外国語に興味がなくでやらなかったため、大学で二年間の単位を取らなければなりませんでした。いちばんやりやすいかなどと思ってドイツ語にしましたが、やってみると、面白くて、未知の世界への道が開かれた感じがしました。ドイツ語を二年間学んだお陰で、言語学並びに別の全く知らない言語を専攻しようと決めました。その全く知らない言語として選んだのが、偶然にも日本語だったのです。

「人格を養う」教育とは、各分野のことをただ単に体験させるだけに止まらないのです。その基礎となっているのが欧米の思想史において重要な位を占める科学的方法です。つまり、問題に取り組むのには、自分の目で実物を見て、データ・状況などを分析し、結論を出すというやり方です。ドイツ語の先生が「辞書を引くな」と言った裏には、将来役に立つから、自分で見て、そして自分で考える習慣を学生たちに育ててもらいたいという気持ちがきつとあったに違いないと思います。

1-3. 訳語よりも経験

知らない単語の処理法においては、外国語とはどんなものか、外国語学習とはどう行すべきかなどの考え方の根本的な違いも窺えます。

日本では英語という外国語は、単語や文法などを暗記すればできるようになると思っているらしい。もちろんそんなことを言う人はいませんが、中学・高校での「大事だから覚えとけ」という教え方の裏にはこの考え方が潜んでいます。

でも、どうなのでしょう。たとえば、社交ダンスの先生は一つのダンスのステップを見せてから、「大事ですから覚えておきましょう」と言うのでしょうか。まさか。練習が必要なのです。習う人は繰り返し、さらに繰り返しして身に付けるまで練習に励むのです。ダンスだけではなくありませんよ。合気道でも、柔道でも、野球でも、テニスでも…。何にしても、やり方についての説明を受けただけでは、できるようになるわけがないでしょ

う。だったら、なぜ英語の勉強だけは違うと考えているのでしょうか。

こう考えているのは教えるほうだけではないのです。一例として、英語の l と r。多くの学生は l と r の発音がうまくできません。その理由を聞くと、「l と r は難しい」と言うのです。じゃ、昨日はどれだけ練習したの？と聞くと、「してません」。じゃ、この一週間は？「していません」。じゃ、このひと月は？この一年間は？「していません。していません」。でも、l と r の発音の仕方についての説明とかは？「習っています」。いつなの？「中学校、高校で」。もう六年もたっているじゃないの。その六年の間に、l と r の発音をどのぐらい練習したの？というのも聞いてみますが、学生の返事は、書かなくてもご存知でしょう。「l と r は難しい」というのも、理由よりも、言い訳ではないでしょうか。

これと逆にドイツ語の授業を覚えています。ドイツ語は英語と同じように l も r もあります。ところが、音の名前が同じでも、発音はそれぞれかなり違います。発音の仕方について先生は説明して、見本も聞かせてくれました。しかし、それで終わったわけではありません。発音の練習もさせられました。特に最初の何週間か、毎回毎回、ドイツ語の l と r が全員できるまで練習しました。もちろん、発音だけではなく、会話の練習も、読書の練習も、作文の練習も続けてやりました。

では、英単語の習得と意味の場合はどうなのでしょう。たとえば、話に出てきた知らない語を英和辞典で調べて、そこに書かれた「意味」を暗記するとします。それで新しい英単語を一つ習ったと本当に言えるのでしょうか。いいえ、その英単語「を」習ったと思ったら大間違い。実際に習ったのはその英単語「について」の日本語の訳語、つまり英単語を日本語としてしか習っていないのです。もちろん、日本語のほうなら、意味とか、使い方とか、微妙なニュアンスまではわかっていますが、英語のほうは意味などが同じと限らないのです。いや、その日本語の訳語だって、本当に合っているかどうかさえ、保証がないのです。やはり英語の単語を英語として覚えようと思えば、それを会話、読書、作文などに、実際に使ったり、

使われているのを味わったりするしかありません。一度ではなく、何度も何度も。練習、というよりも、経験が必要なのです。

ところが、ここで試験のために必要とされている大量の英単語が問題となります。暗記で覚えたものは時々使わなければ忘れてしまいます。これは事実です。したがって、大量の英単語を維持するためには練習しなければなりません。しかし、これもたいてい英語「について」の練習、つまり英単語とその日本語の訳語を単語カードなどを使って繰り返すだけです。しかし、こうした勉強は英語ができる、話せる、書けるようになるのにつながるとは限らないのです。単語の数が多ければ多いほど維持するための時間が多くなり、英語を実際に使って英語として身に付けるのに用いられる時間がその分少なくなってしまいます。逆作用ではないでしょうか。

1-4. 全体を眺める

知らない単語が出てきたときの対応の仕方は読み方でもあります。

ドイツ語の授業で習った読み方は、話の終わり、または長い話の場合は切りのいいところまでまず読み通します。途中知らない単語が出て、止まったり辞書を引いたりしないで、それまでの話の流れに合った適当な意味を自分であてはめて読み続けます。読み終わったところで、全体の言おうとしていることが大方わかれば、それでよし。知らない単語をほっておいて先へ進みます。しかし、全体の意味をつかむにはその知らない単語がどうしても必要ですが、どうしても自分では思いつかない場合は、辞書を引いてもかまいません。

一方、すべての単語を「しっかり押さえないことには、全体を眺めることなどできはしない」という考え方に基づいた読み方ですと、知らない単語が出てくるたびに、止まってその場で辞書を引いて確認します。そうすると、話の流れが途切れ途切れとなり、全体の構成は薄れ、時と場合によっては見失ってしまうことさえあり得ます。どちらにしても、単語をすべて確認してから、話全体の意味、言おうとしていることを考えるという段取

りになっているはずですが、学生の教科書の読み方などから言うと、単語確認レベルから話全体を眺めるレベルへ飛躍するのは難しいようです。ましてや、まだ確認していない単語があったり、あるいはリスニングの場合、聞き取れないところがあったりすると、話全体を眺めて言おうとしていることを自分で考えるどころか、その話に関しては頭がほとんど停止状態に陥ってしまうことが多いのです。[詳しい話は② pp. 260～263参照]

つまり、すべての単語が読めても、文全体を眺める習慣を身に付けていないということです。別の言い方をすると、文章を読む目的、つまりその話の言っているのを理解することすら忘れていても言えるでしょう。

1-5. 単語との付き合い方

英単語を「しっかり押さえる」ということですが、英単語とそれに相当する日本語の訳語を暗記しておけば、ぱっちり、終わり、と考えている方がいるかと思います。あとは、(試験のために) 忘れないように時々復習すればよいとね。

それは一つの意見ですが、これに対して、その単語の本当の意味は英和辞典に載っている語釈でも訳語でもありません。それよりも、読んでいる文章の中にその単語が出てきたとき、また会話や作文にその単語を使ってみたときに初めて本当の意味が生まれるものだという考え方もあります。こう考えると、見たことのない単語に出会ったときから、たとえ辞書を引いても引かなくても、その語との再会や、自分も使える機会が楽しみになります。そしてその語に出会う、使うたびに、より親しくなっていく、という終わりのない付き合い方ができるのです。

私は12年間英和辞典の編集を手伝ったことがあります。日本人にまだよくわかっていない英単語を取り上げて、語釈を改めるのが仕事でした。この仕事は単語と親しくなっていくのと全く逆のプロセスだと思いました。つまり、その語と付き合ってきた経験に照らして、新たな訳語・語釈、と

きには短い解説に書き換えるというものでした。そうやって、私の書いた新しい語釈や説明は「よくわかりました」「すっきりしました」「画期的だ」などとよく言われました。

嬉しいと感じる反面不満も覚えました。訳語も解説もいいのですが、やはりそこまでたどり着く経緯も大事だと思っていました。しかし英和辞典にはそんなことを語るスペースはもちろんありません。

というわけで、日本人にはまだよくわかっていないいくつかの英単語の「画期的な」語釈にたどり着くまでの、裏話をしたく、本論文を書くことを決心いたしました。

2. almostは「ほとんど」合っていない

2-1. ほとんど3時です

大学3年から日本語の勉強を始めました。当時はフランス語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語が主流で、日本語などはまだ人気を集める時代ではなかったのです。私が通った大学の学生数は約4万人でしたが、日本語の授業はたったの6人でした。教材の選択肢も乏しかったのです。使った教科書は戦前に書かれたもので、古い漢字と仮名遣い。レッスンに出てくる単語は巻末の語彙集に一応載っていましたが、漏れもありました。

文章そのものは覚えていませんが、ある時「ほとんど」というまだ習っていない言葉が出てきました。いつものように先へ進んでレッスン全体を読み、その一語がなくても、言おうとしていることが大体わかりました。しかし、「ほとんど」って何だろうと、気になりました。これだけのデータ(使用例)ではわかりませんから、仕方なく語彙集を調べてみました。あら、載ってません! 先生に聞くという手もありますが、ちょっと恥ずかしい。

数日後、本屋でぶらぶら見て回っていたところ、『CONCISE JAPANESE-ENGLISH DICTIONARY』というのが目に入りました。

テルキ デイブ

あっ、これだと、さっそく「ほとんど」を引いてみました。なんと、almostだと言うのです。なるほど、例の文章に合いますね。と言っても、「ほとんど」= almostと、そのまま信じて暗記しようとは思いませんでした。まず会話で使って自分で試さなければなりません。これが私の単語の覚え方です。

幸いにも間もなく試すことができる機会が訪れました。クラスでは時刻の練習をやっていました。先生がおもちゃの時計の針を合わせて「今、何時ですか」と質問すると、学生が「今、4時です」とか、「今、8時23分です」などと答えます。私の番になると、「今、3時2分前です」と答えるはずのところを、「今、ほとんど3時です」と言ってみました。先生が笑って、「そういう言い方はしませんよ」と言うのです。

何だ。It's almost three o'clock. でしょう。もし「ほとんど」= almostが本当だったら、「今、ほとんど3時です」でいいはず。じゃ、『CONCISE JAPANESE – ENGLISH DICTIONARY』は間違っているのだ。

のちに分かりましたが、どの和英辞典も英和辞典も「ほとんど」= almostと、同じ間違ったことを言っているのです。と同時に、「ほとんど」を会話に使ってみたり、使われているのを聞いたり読んだりして経験を積んでいくうちに、自分の中でその本当の意味がだんだんわかってきました。そして英和辞典の編集をやることになったら、第一号としてalmostを取り上げることにしました。

2-2. It's almost three o'clock

almostと「ほとんど」は全く異なることを言っています。一例を示しましょう。

的があって、それを狙ってダーツを投げるとします。「ほとんど真ん中に当たった」と言うのと、たとえばダーツ10本中8、9本、あるいは投げた人10人中8、9人、真ん中に当たったことを言っています。つまり「ほとんど」は、投げた人、または投げられたダーツの「数」についてその「大

部分」と言っているのです。

ところが辞書に書かれたように「ほとんど」= almostとして直訳すると、almost hit the centerという英語になります。しかしこの英語は、投げた人や投げられたダーツの数は関係なく、どれも「真ん中に近いが、当たってはいない」ということを表して、日本語の「ほとんど真ん中に当たった」とは逆のことを言っています。つまり、英語のalmostには「ほとんど」「大部分」のような意味は全くないのです。同じように、It's almost three o'clock. は普通の英語で、「まだなっていないが、もう少しで3時」ということを言っています。時刻を言う場合は、人や物の「数」とか「大部分」などはもちろん関係ありませんから、日本語では「ほとんど3時」とはおかしい。日本語の先生が言ったように、「そういう言い方はしませんよ」。

2-3. almostを新たに

そこでalmostの新たな語釈を次のように提案しました。

almost 【核の意味】 almost ~ 「～ではないが、それに近い」「～にはなっていないが、もう少しで」「あともう少しで～（する／なる）ところ」《類語：nearly》

動作などを修飾するalmost を「ほとんど」と訳すと、上のalmost hitの例のように、英文と逆の意味になるか、わけのわからない文章になることが多いのです。

The child almost drank the poison.

「子供はもう少しで毒を飲むところだった」

(「ほとんど飲んだ」と訳したら、子供はかわいそうでしょう)

I almost [nearly] missed my train.

「(もう少しで) 列車に乗り遅れるところだった」

I almost forgot to feed the cat. 「猫に餌をやるのを忘れるところだった」

I wasn't feeling too well so I almost didn't go on the school trip.

「あまり元気なかったから、修学旅行に行かないところだった」

I'm almost sad the school year is ending.

「学年が終わって、私、寂しくなりそう」

(本当はなっていないけどそれに近い気持ち)

It was almost [nearly] dark when we got home.

「家に帰った頃には間もなく暗くなる場所だった」

Mari is almost as tall as the teacher. 「マリはもう少しで先生と同じ身長」

(身長は同じではないが、近い)

教室では、英語の文法などを説明してから、Did you understand? 「わかりましたか」と聞きます。すると、ほとんどの学生は、「ほとんど」「だいたい」のつもりでAlmost. と返事します。ところが、almostには「大部分」「だいたい」の意味は全くないので、英語として実際に言っているのは「わかりそうで、わからなかった」ということになります。

「多くの」「大部分」を表す英語はmost で、「だいたい」「ほとんど」はalmost all、almost every (厳密に言うと「すべてではないが、それに近い」と言います。これに、almost no 「ほとんど…ない」、almost any 「ほとんどどれでも」という言い方もあります。

“Did you understand?” “Almost everything.”

「わかりましたか」「だいたい／ほとんど」

The child drank almost all the poison.

「子供は毒をほとんど(全部)飲んじゃった」

Almost all my friends have smart phones.

「友達ほとんどみんなスマホを持っているの」

Almost no one has a regular cell phone anymore.

「ガラケイなんか、もうほとんどだれも持ってないわよ」

Taro gets perfect scores on almost every exam.

「タロウはほとんどすべての試験に百点満点だよ」

Almost anyone can succeed if they try hard enough.

「いっぱい頑張れば、ほとんどだれでも成功できるよ」

I almost never eat out. 「外食することはほとんどないさ」

「すべて」「完全」のような意味を含む動作・状態にalmost をつける場合は、「もう少しで」「ほぼ」また「ほとんど」と訳してもいいでしょう。

“How’s the report coming?” “I’m almost finished.”

「レポートの進み具合は？」「もう少しで終わります」

It rained almost the entire weekend. 「週末はほとんどずっと雨だった」

The plane was almost [nearly] full [empty].

「飛行機はほぼ満席 [空席] だった」

Ted gets almost perfect scores on every exam.

「テッドはすべての試験にほぼ百点満点だぞ」

almost は数・量・時などについても用いられ、「～近く」「もう少しで～」
「ほぼ～」と訳します。

I spent almost 40,000 yen on textbooks this semester.

「今学期は教科書に¥40,000近くも使っちゃった」

I’ve been studying English for almost ten years now.

「もはや十年間近く英語を勉強しているんだ」

Since I started my new job I’ve lost almost [nearly] four kilograms.

「新しい仕事を始めてから、体重がほぼ4キロも減ったわ」

テルキ デイブ

ほかにもいろいろありますが、almost ~の意味は「~ではないが、それに近い」であることは変わりません。

Mark and Paul arrived at almost the same time.

「マークとポールはほぼ同時に着いた」

The weather on New Year's Day was almost like spring.

「元日の天気は春のようだった」

He pushed me aside almost intentionally.

「彼は意図的かのように僕を押しかけた」

It's almost certain to rain tomorrow. 「明日、雨になるのはほぼ確実」

It's nine o'clock, almost time for bed. 「9時よ、もう少して寝る時間」

2-4. almostの品詞は？

新たな語釈と例文だけではなく、almost の品詞はどうしますかと編集長に言われました。

品詞というのは単語を働きや語形変化などによって分類したもので、英語の場合、名詞、動詞、形容詞など8種類があります [③ p. 1666]。品詞が分かれば、その語の使い方・働きなどが分かるというので、すべての単語をどれかの品詞としなければならないと、文法学者たちは考えているのです。

それでalmostは伝統的に副詞とされています。ところが、名詞や動詞など、ほかの品詞にうまく当てはまらない単語がすべて副詞とされているので、副詞という分類はむしろ「ゴミ箱」のようなものとなっています [④ p. 28]。したがって、almostは副詞だと言っても、その働きや使い方などについてはほとんど何も教えてくれません。almostはalmostで、品詞なしでいいと思います。と言ったら、だめです。品詞を書かなかったら、読者、特に英語の先生などからどんどんクレームが来ます。やむを得ず、はいはい、almost は副詞、ということになりました。

日本語の「ほとんど」の場合は品詞がなおさら問題です。日本語の文法では「ほとんど」は副詞とされています。しかしそうするためには、副詞の従来の定義、つまり「動詞・形容詞・他の副詞・文全体を修飾する語」を変えて、「時には名詞」という句を加えなければなりませんでした [③ p. 1668]。つまり、副詞の「ゴミ箱」としての役割をさらに拡大したというわけです。

私自身の「日本語文法」では、「ほとんど」は「ほとんど」で、品詞なんかはまったく関係ないのですが。

この章を一言でまとめると、almost ～ は「ほとんど」ではなくて、「～ではないが、それに近い」。

3. please = 「どうぞ」お忘れになってください

3-1. あるアメリカの学生の物語

あるアメリカの学生は高校3年のときに留学で来ていた日本人と友達になりました。卒業して秋から大学の入学が決まりましたが、夏休みは家に遊びに来ないかと、友達に誘われて、ひと月ほど日本に行ってくることになりました。言葉が全くできないとつまらないから、出発のひと月前から丹念に日本語を勉強しはじめました。

成田に到着したのち、東京に出て、電車を乗り継いで、友達の住んでいる町まで一人で行くことができました。駅を出て友達が待っているところへ向かったところ、

「お願いします」

と、ポケットティッシュを渡されました。初めて聞いた言葉ですが、なるほど。人に物を渡すときは「お願いします」と言うんだねと、一つ勉強になりました。

テルキ デイブ

その夜、友達の家で大歓迎パーティー。食卓の周りに座って、友達の家
族とあいさつを交わしたり、笑った入り、お箸を上手に使えたり、お刺身
も食べられたり、流暢な日本語で会話をしたりして、気持ちよく盛り上が
りました。そうした中で突然、

「ね、フレッド君、そこの漬物を取ってくれる？」

と友達に頼まれました。フレッドは漬物の器を手にとって、

「お願いします」

と、友達に渡しました。

そうですね。ちょっとした勘違いですが、十分ありうる話でしょう。何
しろ、同じようなことを日本人も英語に関してやっているのです。

3-2. ある日本の学者の物語

その人は一応英語学者で、初めてアメリカを訪問することになりました。
国際便ももちろん初めてです。長い飛行中に食事が出ますが、その前にス
チュワーデスが回ってきて、

“Please. Please.”

と、一人一人の乗客におしほりを配るのです。なるほど、英語では物を渡
したり進めたりするときはpleaseと言うんだね。日本語はこの場合「どう
ぞ」と言うので、英語のpleaseイコール日本語の「どうぞ」、というわけです。

この人はよほど偉い学者だったらしい。日本にお帰りになると、早速こ
の新たな発見をそのまま英和辞典やその他の英語教材に載せてもらい、の
ちに日本の皆さんがplease = 「どうぞ」と英語を習い、そのまま信じて、
今日に至っています。

上の物語はもちろん文字通りにあつたものではありません。何しろ、
please = 「どうぞ」とは飛行機なんかまだ存在しない時代からずっと伝
統として伝わってきているはずです。しかし次の物語は自分の物語なので、

本当にあったのです。

日本語の勉強を1学年やって、夏休みによその州の大学で6週間の日本語講座を受けることになりました。つまり、大学4年生になって初めて私は飛行機に乗ったわけです。そこでやはり、軽い食事を出す前にスチュワーデスが“Please. Please.”と、おしほりを配って回ってきました。それを受け取りながら、何て変なことを言うんだねと思いました。それまではpleaseがそのように使われるのを聞いたことがなかったからです。

3-3. pleaseの意味（英和辞典の篇）

英和辞典を見ますと、副詞のpleaseには主に二つの意味があると言って、次のような例文を挙げています。

(1) 「どうぞ」

Please come in. 「どうぞお入りください」

Help yourself, please. 「どうぞご遠慮なく召し上がってください」

Please have some cookies. 「クッキーをどうぞ」

This way, please. 「どうぞこちらへ」

Next, please. 「次の方どうぞ」

“May I open the window?” “Please do.”

「窓を開けてもよろしいですか」「ええ、どうぞ」

(2) 「お願いします」[丁寧な依頼を表します]

“Would you like some more coffee?” “Yes, please.”

「コーヒーもう少しいかがですか」「ええ、お願いします／いただきます」

Could I have some more cake, please?

「ケーキもう少しいただいてもよろしいでしょうか」

May I please use your dictionary? 「辞書をお借りしてもいいですか」

テルキ デイブ

Please don't tell her. 「彼女に言わないでくれ」

Let me go to the party! Please! 「パーティーに行かせて、お願い」

“Would you like something to drink?” “Water, please.”

「飲み物は何か」「水ください」

しかしながら、pleaseの意味は？と学生に聞くと、たいていは「どうぞ」と言うし、クラスで宿題などを提出するときはよくpleaseと言うし、「ちょっと辞書を貸して」と頼むと、pleaseと言って渡すこともしばしばあります。どういうわけか、スチュワーデスがおしほりをお客様に差し出しながら「どうぞ」「Please.」と言っているイメージがどうも強く脳裏に焼き付いているらしい。

しかし、その同じ光景はおかしいと私が思ったのにはちゃんとわけがあります。

3-4. pleaseの意味（ネイティブスピーカーの篇）

pleaseはネイティブスピーカーが副詞以外にいろいろと使っていますが、まずその用途を見てみましょう。

動作としてのpleaseは「(人を) 喜ばせる／満足させる」「(人が) 喜ぶようにする」などという意味で用いられます。

He is trying hard to please the teacher.

「先生が喜ぶように彼は一生懸命頑張っています」

No matter what you do you can't please everyone.

「どんなことをやっても、みんなを喜ばせるなんてありえない」

形容詞の (be) pleased は「喜んでいる」「満足している」「嬉しい」気持ちを表しています。この形は受身の「喜ばされている」とも考えられます。

Pleased to meet you. 「会えて嬉しいです」

Mother isn't too pleased with my test results.

「試験の結果に母はあまり喜んでないんだ」

She wore a pleased expression after speaking with her boyfriend.

「彼氏と話をしたあと、彼女は嬉しそうな表情だった」

I hope she will be pleased with the present.

「このプレゼントで彼女は喜んでくれるといいけど」

(be) pleasingも形容詞の形で、「喜ばせるよう」「安らかにさせるよう」というありさまを表しています。

She always wears a pleasing expression.

「彼女はいつも人を喜ばせるような表情なの」

The color scheme of the room is very pleasing.

「部屋の色彩配合はとても心を安らかにするもの」

if you pleaseという言い方は、ゲルマン語系文法の *if it you please 「それがあなたを喜ばせるものならば」のような表現から短縮されたもので、現在は「よろしければ」の意味合いで用いられています。また、掛け声として「すみません」のような使い方もありますが、どちらもやや古くて堅い感じですか。

If you please, I have a question I'd like to ask.

「よろしければ、お聞きしたいことがあります」

if you pleaseがさらに進化して、**3-3** で話した、現在よく使われる pleaseとなりました。

3-5. 「魔法の言葉」

英語圏の子供たちは小さい時から「魔法の言葉」のpleaseとthank youをしつけられます。つまり、物や行動、許可、許しなど、何かを頼むときはplease「お願い」、もらった後はthank you「ありがとう」と言うんだよ、と教わります。

Mommy, can I please have some milk?

「母さん、お願い、牛乳もらっていい？」

Please pass the potatoes. 「ジャガイモをとってください」

Will you take me to Disneyland for my birthday? Please, pretty please.

「誕生日にディズニーランドへ連れて行ってね。お願い、ぜったい」

Please can I go outside and play? 「お願い、外へ遊びに行っていていい？」

Can Mary have dinner with us? Please.

「メアリーと一緒に夕食を食べていい？お願い」

pleaseは子供だけではなく、大人になってからももちろん使います。英和辞典では「丁寧」と言っていますが、「礼儀・作法」でも、「躰」でもあります。何しろ、何かを頼むときは相手の気分を悪くさせるとまずいから、そうならないよう、pleaseを使って喜ばせ、次回頼むときも喜んでくれる確率を高くする、という狙いもないわけではないのです。

3-6. pleaseと「どうぞ」は方向逆

次の会話を見ましょう。

Child : Mommy, can I have a cookie, please?

「かあさん、クッキーもらっていい？」

Mother : Sure. Here you are. 「いいよ、どうぞ」

Child : Thank you. 「ありがとう」

pleaseはクッキーなど、何かをもらいたいとき、つまり物・行動などが「相手から自分へ」のときに用いる言い方です。子供の願いに応じて、お母さんがクッキーを渡ししながら言う「どうぞ」に注目したい。英語はHere you are. となっていますが、この場合お母さんがPlease.と言うのをネイティブスピーカーとしてとても想像できないし、ありえません。

日本語の「どうぞ」は物を渡したり差し上げたり、また何らかの形でその場を譲ったりするとき、つまり「自分から相手へ」のときに用いる語で、pleaseとは動きの方向が逆なのです。確かにpleaseも「どうぞ」も同じ場で、相手の気分を悪くさせないという同じ働きかもしれないが、意味が同じだとは、方向音痴のような説明だと思えます。

3-3. の(1)「どうぞ」の例をもう一度見ましょう。please = 自分から相手への動きを表す「どうぞ」をやめて、please = 相手から自分への動きを表す「お願い」だけにしてみると、次のようになります。

Please come in. 「お入りください」

Help yourself, please. 「遠慮なく召し上がってね。お願いします」

Please have some cookies. 「クッキーを召し上がってください」

This way, please. 「こちらへお願いします」

Next, please. 「次の方、お願いします」

“May I open the window?” “Please do”

「窓を開けてもよろしいですか」「そうしてください」

日本語としては「どうぞ」と言いたいところかもしれませんが、上の英文には、「どうぞ」の気持ちを表す英語はないのです。

3-7. 「どうぞ」を表す英語

日本語の「どうぞ」は万能語で、様々な場合に使えます。一方、同じ「自

テルキ デイブ

分から人へ」の気持ちを表す英語は場合によって異なる言葉を使うことになります。

例えば物を渡すときの「どうぞ」は、Here you are. とか、Here you go. と言います。渡す物が自分から離れて相手のほうに近づいている気持ちを表すのには、hereの代わりにthereを使います。

“May I use your dictionary?” “There you go.”

「辞書を使っていい?」「どうぞ」

「どうぞご自由に」の「どうぞ」は、Go ahead. とか、Help yourself. とか、It's all yours. などと言います。「…してもいい?」に対しての「どうぞ」はGo ahead. が普通。Go ahead. は、「その行動をどうぞ」のような意味合いで広く使われていますが、「おさきにどうぞ」はAfter you. 「あなたの後に」をよく使います。「どうぞ召し上がって」はHelp yourself. とか、Dig in. などと言います。「どうぞよろしく」だけは、あまりにもあいまいで、相当する英語はどうも思いつきません。

JRの電車に乗っていると次のような車内放送が流れてきます。

The next stop is Tokyo Station. Please change here for the Shinkansen.

この場合のplease は、おそらく言い方を「丁寧」にするつもりで言っていると思います。しかし、正確に言うと、英語のplease は行動を頼むときに用いる言葉なので、実際に言っているのは、「ここで新幹線にお乗り換えなさい。お願いします」ということになります。そうではなくて、言いたいのは「新幹線のお乗り換えです」という案内。案内・ルール・やり方などを述べる場合は、「どうぞ」も「お願い」も使用しないで、英語ではいわゆる「現在時制」を用いるようになっていきます [⑤ p. 234]。つまり、

Change here for the Shinkansen.

4. challengeに「チャレンジ」？

4-1. 富士山に挑戦

英語のchallenge の意味を一言で言うと、「…に挑戦する」〔① p. 76〕。そして、challengeをカタカナに書き換えた「チャレンジ」が、現在この同じ意味の日本語として使用されています。したがって、学生の英作文には、次のような文章がしばしば見られます。

I challenged Mt. Fuji during summer vacation.

I challenge English composition this semester.

For my report, I will challenge Einstein's theory of relativity.

As club activity, I want to challenge "yosakoi".

また、英語教材の中ではLet's Challenge English というようなタイトルを付けたものを見ることもあります。

いずれももちろん言おうとしていることは分かります。つまり、

「夏休みに富士山に挑戦した」（登ってみた）

「今学期、英作文にチャレンジしている」（履修して頑張っている）

「レポートでは、アインシュタインの相対性理論に挑戦する」

（理解し、説明しようと思う）

「部活として、よさこいにチャレンジしたい」（やってみたい）

「英語に挑戦しましょう」（英語教材）

テルキ デイブ

しかし残念ながら、ネイティブスピーカーから見ると、上の英文は、まったく別のことか、あるいは変な、わけのわからないことを表し、学生が言おうと思っていることを伝えていないのです。

challenge = 「…に挑戦する」だけではうまくいかないということに、英和辞典編集者たちも十分に気づき、challengeの意味を「難問」だの、「異論」だの、また「能力を試す」とか、「奮起させる」「やる気を刺激する」「やりがいのある」などと、訳語をどんどん増やしてきたため、語釈は逆にごたごたしてしまいました。どうにか、もっとすっきりした語釈できないかという依頼を受け、次に目を向けたのはchallengeでした。

4-2. 「挑戦」とchallenge

まず日本語の「挑戦」「挑戦する」とはどういうことを考えてみました。すると、二つの場合、あるいは二つの意味があるのではないかと思います。

- (1) 相手に戦いや試合など、何らかの勝負を申し込む、挑むこと。
「彼が私にテニスの試合を挑戦して [挑んで、申し込んで] きた」
「彼の挑戦に応じた」
- (2) 困難な物事に「やってみよう」と立ち向かうこと。
「夏休みに富士山に挑戦した」

ところが今度英語のchallengeの意味を考えてみると、やはり違います。challengeというのは、相手に向かって何かを「呼びかける」「申し込む」ことで、つまり「挑戦」の(1)のようなことを表すものです。

He challenged me to a game of tennis.

I accepted his challenge.

しかし、実際に「やってみる」とか「立ち向かう」というような意味合い、つまり「挑戦」(2)の意味は英語のchallenge にはまったくありません。学生の書いた文章や英教材のタイトルはみんなこのところが間違っています。彼らの言いたいことを表すにはchallengeではなくて、「…を試みる」のような英語にしなければなりません。私なら、次のように表現してもいいかなと思います。

I tried climbing Mt. Fuji during summer vacation.

I'm attempting to improve my English composition skills this semester.

For my report I will try [attempt] to explain Einstein's theory of relativity.

As my club activity I want to try my hand at "yosakoi".

英語教材のタイトルのLet's Challenge Englishだけはいかにも日本人の感覚で書かれたもので、これを英語にすると、Let's Try Studying English となりますが、ネイティブスピーカーの感覚では、教材の題としては幼くてつまらないし、そんな題にしたら、きっと笑われてしまいます。

4-3. challengeの「呼びかけ」

英語のchallengeは相手に向かって呼びかけることですが、呼びかけの内容は二種類あります。

- (1) 相手に戦いや試合など、何らかの勝負を申し込む、挑むこと。
- (2) 相手に向かって、そのことは「やれるものなら、やってみろ」「できるものなら、やって見せろ」などと呼びかけること。

(1)は日本語の「…に挑戦する」の 前述の4-2. (1)とそっくりなので問題は無いのですが、challenge の(2)の意味は日本語の「挑戦」にはないので、どう表現すればいいかが問題。もう一つの問題は、challengeが動詞・名詞・

テルキ デイブ

形容詞の形で様々な場合に使用されています。challengeの意味は英語として一貫して変わりませんが、日本語で表すのがますます複雑。そこで「難問」とか「異論」「能力を試す」「奮起させる」「やりがいのある」などの訳が生まれました。challenge の(2)の使用例を見て整理してみましょう。

(a) 人が人に向かって「できるものならやってみろ」と呼びかける場合。

“I challenge you to climb Mt. Fuji.”

「富士山に登れるものなら登ってみろ」

The teacher challenged anyone to solve the problem in 15 minutes.

「誰でも、問題を15分で解けるものならやってみると、先生は呼びかけてきた」

No one accepted the teacher's challenge.

「先生の呼びかけに応じる者はいなかった」

(b) 莫大な努力や能力を要する仕事・問題・障害などが人に対して「うまくできるものならやってみせろ」と呼びかける場合。challengeを動詞として使うと、次のような文章になります。

My work challenges me to think in new ways.

「僕の仕事は『できるものなら、新たな考え方をしてみせろ』と呼びかけるものだ」

「新たな考え方を要請するものだ」なども、元の意味に近い訳でしょう。また同じ意味でchallengeを名詞として使うこともよくあります。

Global warming is a challenge we all must face.

「地球温暖化は我々が立ち向かわなければならない呼びかけである」
(呼びかけとは、「解決できるものならやってみせろ」ということ)

For many students of Japanese learning kanji presents a great

challenge.

「多くの日本語学習者にとっては、漢字を覚えることが大変な難問となっている」

For many students…の文章につけた日本語訳は多くの英和辞典がやるように、まず名詞のchallengeを「難問」と訳し、それからpresentを「…となる」とごまかしているので、present a challengeの意味はそうですが、味が全く出ていません。より生き生きしたイメージの訳にすると、「…漢字を覚えることが『うまく覚えられるものならやって見せろ』と、大変な呼びかけをぶつけてくる」となります。また「能力を試すもの」を利用した訳も考えられます。

形容詞のchallengingも同じ意味でよく用いられます。

I face many challenging problems in my work.

My job is very challenging.

challengingの意味として、「能力を試す」とか「意欲をそそる」「張り合いのある」「やりがいのある」などと英和辞典はいろいろ挙げていますが、この場合の言っていること、つまり「『乗り越えられるものならやって見せろ』と呼びかける」というのからどんどん遠ざかっていく感じがします。特に、「張り合いのある」「やりがいのある」という訳は、challenge (2)の意味を無視して勝手につけたものだと思います。

(c) 人のやったことや、主張・発表したことなどに対して「それが本当ならもっと証明して見せろ」というような呼びかけをする場合。動詞・名詞の使用が多く、英和辞典ではこれを煮詰めて、結果的に同じような意味を表す「異論 (する)」「反論 (する)」「異議を唱える」「疑わしく思う」「問題とする」などと、日本語としてより言いやすいように訳しています。

Most other scientists challenged Darwin's ideas regarding evolution.

「ほとんどの科学者たちが進化に関してのダーウィンの考えに反論した」

Many viewed Darwin's ideas as a challenge to traditional religious teachings.

「ダーウィンの考えが宗教の伝統的教えに対する反論 [挑戦] だと多くの人々はみなしていた」

For my report I want to challenge Einstein's theory of relativity.

「レポートでは、アインシュタインの相対性論に異論したい」

I challenge his ability to act as club president.

「会長を務める彼の能力を疑わしく思う」

I don't mean to challenge your findings, but I do wish you would clarify one point.

「所見に異論をするつもりはないが、一つの点を明確にしていきたい」

The President's proposal met with a challenge in the senate.

「大統領の提案は上院で弁明を要請された」

challenge のもとの意味からちょっと離れてしまうものもありますが、逆にこの使用ではchallenge の意味が最もぼやけている感じなので、まあ、いいかなとも思います。

一言でまとめると、challenge は、相手に何らかの勝負を挑むか、相手に向かって「やれるものなら、やって見せろ」と呼びかけることなのです。

5. each other = 「互いに」

5-1. しかし「互いに」 = each otherとは限らない

「互いに頑張って試験にいい成績を取ろう」を英語で言おうと思って、
×Let's work hard each other and get good grades on the exam. と、このような英文を日本人はよく作りますが、なぜ駄目なのでしょう。だって、どの英和辞典を見ても、each otherは「互いに」となっているし、たとえば、They smiled at each other. は、「彼らは互いに微笑み合った」でいいし。いったい、どうなってんのかと、編集の方の困っている様子を見て、次にチャレンジするのはeach other = 「互いに」に決定しました。

5-2. each other = 「互いに」の一部のみ

私も大昔、「互いに」 = each otherと教科書かどこかで習ったはずだと思います。しかし、ある時突然、「互いに頑張って試験にいい成績を取ろう」のような文章に出会って、「えっ？こんな使い方もあったの？」とびっくりしたのを覚えています。これじゃ、each other と「互いに」は同じだと言えないよねとも思いました。その後経験を積んでいくうちに、いつの間にかeach otherと「互いに」の違いがわかってきました。実際は困るほど難しいものではないけどね。

問題は英語のeach otherよりも、日本語の「互いに」のほうにあるのです。つまり、「互いに」には意味が二つあります：

- (1) AからBへ、BからAへという双方向的な行動や動きを表すこと。
「彼らは互いに微笑み合った」
- (2) AもBも（A・Bともに）同じ目標に向かっての行動を表すこと。
「彼らは互いに先生に微笑んだ」

テルキ デイブ

一方、each otherは、「互いに」の(1)「双方向的行動・動き」をのみ表しますが、(2)「ともに同じ目標に向かっての行動」を表しません。「ともに」を表すときはbothやboth of us、または三人以上の場合はallやall of usなどを用います。ときには、together を使うこともあります。

They smiled at each other. (三人以上の場合はone anotherを用いる)

They both [All of them] smiled at the teacher.

要するに、each otherの語釈を書く際、英和辞典の編集者はどういうわけか、「互いに」の二つの意味を忘れてしまい、each other = 「互いに」と書くようです。それで日本人は、そのまま信じて、あとで困ってしまいます。不思議な習い方だと思わないのかね。

もう少し例を見ましょう。

「互いに頑張って試験にいい成績を取ろう」

Let's both of us work hard and get good grades on the exam.

「試験の勉強を互いに助け合おうよ」

Let's help each other study for the exam.

「ジムとティムは互いに雪の玉を投げつけた」

Jim and Tim threw snowballs at each other.

「ジムとティムは互いにキムを狙って雪の玉を投げつけた」

Together Jim and Tim threw snowballs at Kim.

Jim and Tim both threw snowballs at Kim.

6. How about __? は「どうですか」?

6-1. 「週末はどうでしたか」

ついこの間のことです。教室に入ると、How about your weekend? と一人の学生が親切そうに話しかけてきました。えっ? そんな話があったっけ? と思いました。しかし返事ができる前に、もう一人の学生が寄ってきて、How about your wife? と聞いてきました。

待ってよ! おかしいぞ!

言いたいことはもちろんわかります。「週末はどうでしたか」でしょう。「奥さんはいかがですか」でしょう。しかし、そういうのを尋ねるのには、How about __? は使わないよ、と説明しようとする、

「だって、辞書にはそう書いてあるけど」と学生は言うのです。

そうかな。家に帰って調べることにしました。

6-2. 英和辞典によるHow about __?

家に帰って手元の英和辞典〔③⑥⑦⑧⑨⑩〕を開いてみますと、どれも似ているようなことが書かれていました。

How about __? [意見・情報・説明などを求めて]「__はいかがですか」「__はどうですか」

How about the concert? 「ライブはどうでしたか」

How about Ted's new car? 「テッドの新しい車はどうだい?」

なるほど、こうした説明では、間違えるのも仕方ありません。だったら、どう直せばいいかと考えてみました。

6-3. How about __? を新たに

まずは、英和辞典の [意見・情報・説明などを求めて] という言い方は

テルキ デイブ

ちょっといい加減。ネイティブスピーカーが意見・情報・説明などを求めるときは、How about __? ではなく、How is __? 「__はどうですか」とか、What do you think of __? 「__はどう思うか」、How do you like __? 「__はどう思うか」などを用います。

How was your weekend? 「週末はどうでしたか？」

How is your wife? 「奥さんはいかがですか？」

What did you think of the concert? 「ライブはどうでしたか？」

How do you like Ted's new car? 「テッドの新しい車はどう思う？」

一方、How about __? は、「__はいかがですか」「__はどうですか」という意味ではありますが、英和辞典の説明と違って、新しい意見・情報・説明などを求めるのには用いないので、むしろ「__は(いかが)?」「__は(どう)?」と考えたほうがいいかもしれません。また、What about __? という言い方もHow about __? とほぼ同じように用います。使い方はいくつかあります。

(a) [勧めたり誘ったりするときに] 「__は(いかが)?」

How about some cookies [some more coffee]?

「クッキー [コーヒーもう少し] はいかが？」

(「クッキーはどう (おいしいか)?」はHow are the cookies? という)

How about a game of tennis? 「テニスが一番はどう？」

How about [What about] listening to some music?

「音楽を聴いてはどう？」

How about having lunch together sometime soon?

「いつか近いうちに一緒に昼食はいかが？」

How about we go see a movie tomorrow, huh?

「ね、明日、映画を見に行くってどう？」

- (b) [してほしい／ほしくないことを頼むのに、(ときには皮肉に) 提案の形で] 「__したらどう?」「__しないようにしたらどう?」「__しないでくれたらどう?」

How about cleaning up your room? It's a mess.

「部屋を片付けたら? 汚いんだもの」

How about telling the truth for once?

「一度でも本当のことを言ったらどう?」

How about not playing the radio so loud?

「ラジオの音をそんなに大きくしないでくれたら?」

How about you don't smoke when there are children around?

「近くに子供がいるときはタバコを吸わないようにしたらどう?」

- (c) [話の続き、またはその場の状況の反応として、一案・追加・代替・対象転換などを述べて] 「__は?」「__はどう?」「__はどうする?」

A : How is your father?

「お父さんはいかがですか」(How about __? はおかしい)

B : He's fine. 「元気ですよ」

A : How about your mother? 「お母さんは?」

B : She's fine too. 「(母も) 元気」

E : Let's have lunch together sometime.

「いつかお昼を一緒にしましょうよ」

F : That would be nice. How about [What about] tomorrow?

「すてきだわ。明日はどう?」

I : I'm thinking of inviting Peter and Paul to the party.

「パーティーにピーターとポールを呼ぼうと考えている」

テルキ デイブ

J : How about [What about] Mary? 「メアリーはどうするの?」

M : I can't decide which hat to wear.

「どの帽子をかぶっていくか決められないわ」

N : How about the blue one? 「青いのはいかが?」

M : It doesn't suit me. How about I do the red one?

「似合わないわ。赤いのにしたらどうかしら?」

Q : I like SF novels. How about you?

「僕はSF小説が好きなんだ。きみは?」

R : They're OK, I guess. 「まー、いいでしょうけど」

Q : Well, how about mysteries then? 「それじゃ、推理小説は?」

- (d) [気持ちを込めたHow about __? は自分の感動を表し、相手をおったり、同意を求めたりするのに用いて] 「__はどうだい?」「__はどう思うかい?」

How about Ted's new car? Pretty nifty, eh?

「テッドの新しい車はどう思うかい? ね、格好いいだろう?」

How about this weather we're having? Couldn't ask for anything better, huh?

「この頃の天気はどうだい? これ以上のものは望めないよね」

7. same は「同じ」、identical は「同じ」ではない

7-1. sameは「同じ」

英語のsame は日本語の「同じ」と同じように二通りの意味で用いられます。

- (1) 二つ以上のものがある、質とか、内容、外観など、何らかの点において「同じ」「同様」「同類」「一緒」であることを表す。基本文：

A and B are the same. 「AとBは同じ」「AもBも同じ」

A is the same as B. 「AはBと同じ」

- (2) 二つ以上の時や場合がある、それぞれのものが「同じ（一つの）もの」「同一物」であることを表す。基本文：

The thing T1 and the thing T2 are the same.

「T1 のものとT2 のものが同一物」

The thing T1 is the same as (the thing) T2.

「T1のものはT2のものと同一物」

例文を少し見ましょう。

- (1) AもBも「同様」「同類」（ものは二つ以上）

Jack and Jill are reading the same book.

「ジャックもジールも同じ本を読んでいる」

The book Jack is reading is the same as the book Jill is reading.

「ジャックが読んでいる本はジールが読んでいる本と同じ」

Jack is reading the same book as Jill.

「ジャックはジールと同じ本を読んでいる」

May and June came to the party wearing the same dresses.

「メイとジュンは同じドレスを着てパーティーに来た」

Tom's necktie isn't the same as Jerry's, but it's very similar.

「トムのネクタイはジェリーののと、同じではないけど、すごく似ている」

The price of these two products is the same, but the quality is quite different.

テルキ デイブ

「この二つの商品は、値段は一緒だが、品質はかなり違う」

Their times in the 100- meter were exactly the same.

「彼らの100メートル走のタイムはぴったり同じだった」

I'm looking for the same scarf to give as a birthday present.

「誕生日のプレゼントにあげるために、同じスカーフを探しています」

I'm not the same as you, so don't expect me to act the same.

「僕は君と同じじゃないから、同じようにするなど、期待しないでね」

After a while all big cities begin to look the same.

「しばらくすると、大都市はすべて同じように見えてくる」

"I'll have the A lunch." "I'll have the same."

「私はAランチにする」「私も同じにする」

(2) T1もT2も「同一物」(時・場合は二つ以上、ものは一つ)

These two photos are of the same scene, before the tsunami and after.

「この二枚の写真は同じ光景、津波の前と後だ」

I had the same teacher for English last year.

「去年も英語は同じ先生だった」

We're using the same textbook as last year.

「去年と同じ教科書を使っている」

I always stay at the same hotel whenever I visit London.

「ロンドンを訪問するたびにいつも同じホテルに泊まる」

They gave me the same room as last time.

「前回と同じ部屋をくれた」

That teacher never uses the same textbook twice.

「あの先生は同じ教科書を二度と使わないさ」

Some scholars insist Shakespeare and Bacon are the same person.

「シェークスピアとベーコンは同一人物だと主張する学者もいる」

7-2. sameの問題

same「同じ」を使った文章の中では曖昧なもの、つまり「同類」でも「同一物」でも、どちらでも解釈できるものもあります。

She's wearing the same dress as last night.

「彼女は昨夜と同じドレスを着ている」

I saw the same car yesterday too. 「昨日も同じ車を見た」

同じ種類のドレス／車なのか、それとも昨夜／昨日のものと今のものと同一の物なのか、上の文章だけでははっきりしません。この点は英語も日本語も同じですから、そういった意味ではsameはそう難しくないはずですが、ところが、ここで大きな問題が起きてしまいます。

英和辞典をよく見ると、sameを使った英文を日本語にする際、元の文法を忠実に訳さないで勝手な日本語訳をつけることが意外とあります。そうすると、sameの解釈を一方的に決めつけることになります。たとえば、もともと解釈不明のShe's wearing the same dress as last night. を「彼女は昨夜着ていた、同じドレスを着ている」と訳すと、「同じ一つのドレス」ということになるし、また、「彼女は昨夜のと、同じドレスを着ている」とすると、「同じ種類のドレス」という解釈になります。ところが、これらの英語はちがいます。前者の「彼女は昨夜着ていた、同じドレスを着ている」の英語は、She's wearing the same dress that she wore last night. と言うし、後者の「彼女は昨夜のと、同じドレスを着ている」は、She's wearing the same dress as the one she wore last night. と言うのです。

元の英文に合っていない日本語訳をつけた一例を見ましょう。

This is the same watch that I lost. 「これは私がなくした時計だ」〔⑧〕

全然違うでしょう。「これは私がなくした時計だ」の英語は、This is the

テルキ デイブ

watch I lost. と言って、same は使わないのです。This is the same watch that I lost. を忠実に訳すと、「これは私がなくした同じ時計だ」となり、この英語も日本語もわけがわからないので、なるべく避けたいものです。「これは私がなくしたのと、同じ時計だ」、つまり、今指している時計は、なくした時計と同じ種類だということを英語で言うならば、This watch is the same as the one I lost. がいちばんわかりやすいでしょう。

このようにsame の使用と実際に言っている意味に注意する必要がありますが、もっと注意しなければならないのはidentical という言葉です。

7-3. the identical ancestor

ある時、英語の教材を制作しているところから英文チェックを頼まれました。その仕事をやっているうちに、突然、

Whales and hippos come from the identical ancestor.

という文章が出てきて、思わず笑ってしまいました。あまりにも面白くて、ついに担当者に言ってしまいました。「『クジラもカバも同じ祖先からきている』と言うならば、Whales and hippos come from the same ancestor. と言わなければなりません。the identical ancestor はおかしいよ」と説明しようとする、「だって、英和辞典によれば、identical もいいはずですよ」と担当者は言うのです。

「じゃ、英和辞典は間違っています」

長いこと英和辞典の編集をやっていて、ほとんど口癖のようになっていたセリフで返事すると、

「そうかしら」と、担当者は、この人は何者だという声で言い返しました。

このエピソードがあったのはたまたま編集の仕事でsame のことを考えているところだったのです。そして、確かにsame の類語としては

identical と書かれているし、またsame の例文の中には次の文章もありました。

That's the same [identical] scarf I lost the other day.

「あれは先日私がなくしたまさにあのスカーフだ」〔⑦〕

この英語も日本語の訳も怪しいと思っていたので、sameと同時にidenticalをやることにしました。

7-4. identicalもsameも「同じ」？

identicalを手元の英和辞典で調べたところ、どれもだいたい同じ二つの意味が書かれていました。

- (1) 二つ以上のものが「同じ」「同様」「まったく同じような」「等しい」「あらゆる点で一致している」
- (2) [通例 the ~]「同一の」「当の」「まさにその」「まったく同一の」

要するに、identical はsame とほぼ同じだと言っています。ただ、identical は「same より意味が強い」というような説明もついているので、これを「まったく」とか「まさに」と訳しているらしい。

なるほど、英和辞典に書かれたことをそのまま信じてしまえば、Whales and hippos come from the identical ancestor. という英文は当然正しいはずですが。ところが、私はおかしいと思って笑い出したのは、identical の英語としての意味もわかるし、この文章が目に入った瞬間、identicalにぴったりの日本語もぴんとききました。それは「そっくり」という一語なのです。これは辞書や日本語の教科書などから習ったのではなく、日本語を長年使ってきた経験から自然にわかったものです。

「そっくり」には二つの意味があることも経験からもちろんわかってい

テルキ デイブ

ます。ひとつは、「すっかり」「全部残らず」、「子供はそこにおいてあったお菓子をそっくり食べてしまった」という意味ですが、これではなくて、identical のもうひとつの意味、「二つ以上のものが極めてよく似ている」、「彼女はお母さんにそっくり」の「そっくり」です。したがって、Whales and hippos come from the identical ancestor. が目に入った瞬間、

「クジラもカバもそっくりの祖先からきている」

という日本語も頭に浮かんできました。

もしidentical = 「そっくり」が正しいとすれば、英和辞典に書かれているidentical の(1)「同じ」「同様」「等しい」と(2)「同一の」「当の」「まさにその」をもう一度詳しく検討する必要があります。

7-5. identical は「同じ」ではない

identical の意味を英英辞典で確認すると、「まったく同じ、または極めてよく似ている」となっています [⑪⑫]。確かに、意味の上では、英語のidentical とsame、日本語の「そっくり」と「同じ」は似ているところがあります。しかし実際に使うと、同じではないことがわかります。7-1. のsame (1)の例文にidentical を入れ替えてみましょう。

Jack and Jill are reading the same book.

「ジャックもジールも同じ本を読んでいる」

× Jack and Jill are reading the identical book.

× Jack and Jill are reading identical books.

× 「ジャックもジールもそっくりの本を読んでいる」

(「そっくりの本」はおかしい)

May and June came to the party wearing identical dresses.

「メイとジュンはそっくりのドレスを着てパーティーに来た」

Tom's necktie isn't identical to Jerry's, but it's very similar.

「トムのネクタイはジェリーのと、そっくりではないけど、すごく似ている」

× The price of these two products is identical, but the quality is quite different.

× 「この二つの商品の値段はそっくりだが、品質はかなり違う」

× Their times in the 100- meter were exactly identical.

× 「彼らの100メートル走のタイムはぴったりそっくりだった」

（「そっくり同じ」とは言えるが、この場合の「そっくり」は「すっかり」の意味）

I'm looking for an identical scarf to give as a birthday present.

「誕生日のプレゼントにあげるために、そっくりのスカーフを探しています」

（英文のan identical scarf に注目。この場合the identical scarf はおかしい）

× I'm not identical to you, so don't expect me to act identically

× 「僕は君とそっくりじゃないから、そっくりにするなど、期待しないでください」

After a while all big cities begin to look identical.

「しばらくすると、大都市はすべてそっくりに見えてくる」

“I'll have the A lunch.” 「私はAランチにする」

× “I'll have the identical.” × 「私もそっくりにする」

7-6. 「まさにその」はまさに作り話

ところが、英英辞典 [⑪⑫] を見ますと、英和辞典に書かれている identical の (2) [通例 the ~] 「同一の」「当の」「まさにその」「まったく同一の」のようなことはどこにも書いていないのです。しかも、T1 のものも T2 のものも「まったく同一」というような使用例も載っていません。

テルキ デイブ

つまり、英語のidenticalは、日本語の「そっくり」と同じように必ず「二つ以上のもの」について言うものです。

ということは、identical の(2) [通例 the ~]「同一の」「当の」「まさにその」「まったく同一の」というのは英和辞典の作り話だったのです。そして、(2)の使用例として挙げているものもすべて怪しいのです。

まず、**7-3**に出した文章をもう一度見ましょう。

That's the same [identical] scarf I lost the other day.

「あれは先日私がなくしたまさにあのスカーフだ」

これはsame の例として辞書に載っていましたが、ご覧のように、日本語の文章はその英語の訳でもなんでもなく、まったく別の文章なのです。「あれは先日私がなくしたスカーフだ」を英語で表すと、That's the scarf I lost the other day. と言います。「まさにあのスカーフ」と強調するならば、英語ではvery「まさしくその」を使って、That's the very scarf I lost the other day. と言うのです。しかし、日本語と同じように英語はsame も identical も一切使いません。

一方、That's the same scarf I lost the other day. の英文を正確に日本語に訳すと「これは先日なくした同じスカーフだ」となり、**7-2**で話した、This is the same watch that I lost.「これは私がなくした同じ時計だ」と同じように、どう解釈したらいいかわからないので、なるべく避けたい文章なのです。

次に、That's the identical scarf I lost the other day. という文章ですが、英和辞典でなければとても見る事ができない、変な英語で、日本語に直訳すると、「あれは先日なくしたそのそっくりのスカーフだ」となります。この英語も日本語も解釈に困りますが、どうも、指しているスカーフとなくしたスカーフと、この二つのものが「そっくり」だと言おうとしているらしい。だったら、日本語では「あれは先日なくしたのとそっくりのス

カーフだ」と言って、英語ではThat is an identical scarf to the one I lost the other day. と言うのです。That scarf is identical to the one I lost the other day. 「あのスカーフは先日なくしたのとそっくりだ」という言い方もあります。どちらにしても、指しているスカーフとなくしたスカーフとは「まったく同一のもの」だとか、指しているスカーフは「まさにその」なくしたスカーフだと表すのには、identical も「そっくり」も使いません。また、identical (2) の例として、次のものが載っています。

the identical person 「同一人」「本人」 [③⑩]

the identical car 「まさにあの（ときの）車」 [⑦]

文章になっていないから、いったい何のつもりかさっぱりわかりません。たとえば、日本語の「本人」を使いそうな会話なら、

A : 「スミスさんを探していますが」

B : 「本人はあちらですよ」

これを英語にすると、A : I'm looking for Mr. Smith. でいいですが、B の場合は、He's over there. とか、That's him over there. と言います。× The identical person is over there. なんかは、英語としては阿呆らしい、としか言いようがありません。

This is the identical car I saw yesterday. 「これはまさに私が昨日見た車だ」 [⑥] という例文がありましたが、上のThat's the identical scarf I lost the other day. の例と同じことです。つまり、変な英文に全然合っていない日本語訳をつけて、これによって、経験よりも訳語として英単語を覚えようとする日本の皆さんに間違った英語を教えている、という始末です。

もう一つの「同一物」の例を見ましょう。

The hotel manager gave us the identical room to the one we had before.

「ホテルの支配人は以前泊まった時とまったく同じ部屋に私たちを通した」〔⑦〕

これでおわかりでしょうか。identical の (2)〔通例 the ～〕「同一の」「当の」「まさにその」「まったく同一の」という作り話が成り立つためには、英和辞典は必ず怪しい英文に、それにまったく合っていない、勝手な日本語訳をつけなければならないということです。このホテルの部屋の例も異例ではありません。

まず日本語訳の「以前泊まった時とまったく同じ部屋に私たちを通した」ですが、これが「以前泊まった時とまったく同一の部屋に私たちを通した」の意味を表していると英和辞典は言っていますが、実は「以前泊まった時とまったく同様の部屋に私たちを通した」という解釈も可能なのです。つまり、この日本語はあいまいな文章なのです。どちらにしても、この英語のほうは変な、わけのわからないものです。この文章について言えることは、英和辞典が言っている「以前泊まった時とまったく同一の部屋に私たちを通した」の意味をはっきり表しているものではない、ということだけです。

さて、参考のために、「以前と同一の部屋」を最もわかりやすく表す英文を見ましょう。この場合identical「そっくり」は一切使いません。

The hotel manager gave us the room we stayed in before.

「ホテルの支配人は以前泊まった部屋に通した」

The hotel manager gave us the same room we stayed in before.

「ホテルの支配人は以前泊まった同じ部屋に通した」

The hotel manager gave us the very room we stayed in before.

「ホテルの支配人は以前泊まった、まさしくその部屋に通した」

The hotel manager gave us the very same room we stayed in before.

「ホテルの支配人は以前泊まった、まさに同一の部屋に通した」

The hotel manager gave us the exact same room we stayed in before.

「ホテルの支配人は以前泊まった、まさに同一の部屋に通した」

ついでに二つ以上のものが「同じ」「同様」「そっくり」を表す英文も見ましょう。ホテルの部屋をやめて、もっと言いそうな服の例にしましょう。

Bill and Burt are wearing the same necktie(s).

「ビルとバートは同じネクタイを着けている」

(necktie は単数でも複数でも。解釈は当然「同じ一つの」ではなくて、「同様の」)

Bill and Burt are wearing identical neckties.

「ビルとバートはそっくりのネクタイを着けている」

(注意：…the identical necktieは怪しい。避けたほうがいい)

Bill and Burt are wearing neckties that are the same.

「ビルとバートは同じ（である）ネクタイを着けている」

(ややぎこちない感じ)

Bill and Burt are wearing neckties that are identical.

「ビルとバートはそっくりのネクタイを着けている」

Bill is wearing the same necktie as Burt.

「ビルはバートと同じネクタイを着けている」

Bill is wearing an identical necktie to Burt's.

Bill is wearing a necktie identical to Burt's.

「ビルはバートとそっくりのネクタイを着けている」

(英文は両方とも意味が同じ。後者のほうがややスムーズな感じ)

この章を一言にまとめて言いますと、same = 「同じ」、identical = 「そっくり」。

8. 何の「つもり」？

8-1. 「つもり」を表すつもり

わざわざ調べたわけではないですが、編集・翻訳などの仕事で英和辞典を引いたときにたまたま気づいたのです。つまり、「つもり」を意味として書かれた英語の語句は少なくとも6つあるということです。それは、

will (do)	I will attend the meeting on Saturday.
be going to (do)	I am going to attend the meeting on Saturday.
expect to (do)	I expect to attend the meeting on Saturday.
plan to (do)	I plan to attend the meeting on Saturday.
intend to (do)	I intend to attend the meeting on Saturday.
mean to (do)	I mean to attend the meeting on Saturday.

であって、すべて同じ「土曜日の会合に出席するつもりです」と、日本語に訳すと言うのです。

しかし、ネイティブスピーカーから言うと、上の英文の言っていることがそれぞれ異なりますし、中では「つもり」で訳すと、英文と違う意味になってしまうものもあります。詳しく見てみましょう。

8-2. 未来の「つもり」

will (do) と be going to (do) は英語の「未来時制」と言って、将来の動作や行動、作業、行い、状態などを話すときに用いる動詞の形です。この

ように教えれば問題はないはずですが、ここで英文法学者や英和辞典はやってはいけないことをやってしまいます。

英和辞典や英語の説明を書く際、英語の一つ一つの単語や一個一個の文法構造に対しては、相当する日本語の単語や文法構造がなければならぬと、誰が決めたかわかりませんが、そういうことになっています。ところが、日本語の場合は「未来時制」というような特別な動詞の形は存在しません。将来の話をするときは「何々をする」とか「何々だ」などと言って、これに「明日」とか、「10分後」など、未来の時を示す言葉をつけたり、あるいは未来の話だという判断をその場の状況や話の流れに任せたりする、という話し方なのです。なのに、英語のwill (do) とbe going to (do) の語釈となると、どうしても何らかの相当する形をつけなければいけないという思い込みから、これも誰が決めたかわかりませんが、「(する) だろう」「(する) つもり」と定義することになっています。英和辞典はすべてこうやっているし、学生もみんな英語の未来時制を「(する) だろう」「(する) つもり」と習っています。

なぜこんな勝手なことをやってはいけないかと以前の論文 [⑤ pp. 223～230] で話しているのですが、ここでは結論だけ述べます。つまり、英語の未来時制を「(する) だろう」「(する) つもり」にすると、元の英語にない意味、「だろう」や「つもり」を持ち込むという、とんでもないことになってしまうからです。

すると、英語の将来の話の I will attend the meeting on Saturday. また I am going to attend the meeting on Saturday. は、日本語では将来の話の「土曜日の会合に出席します」となります。ただし、決意として言うときはwill (do) のほうを、計画として言うときはbe going to (do) のほうを用いる傾向にある、ということにご注意 [⑤ pp. 230～232]。

8-3. 予想しなかった「つもり」

大きな問題はないと思うが、expect をちょっと見てくれないかと編集

テルキ デイブ

の方に頼まれたことがあります。

expect は「予期」「予想」「期待」、つまり、今の状況から言うとおそらくそうする／なるだろうと思う」ことを表しています。

We can expect clear skies over the weekend.

「週末はずっと晴天が期待できます」

Scientists expect a 2°C rise in average temperatures over the next ten years.

「来る十年間にわたって平均温度の2°C上昇を科学者は予想している」

I expect he will get a good score on the exam.

「彼は試験におそらくいい成績を取るだろうと思う」

expect A (人) to (do) という言い方は、「A (人) が... (する) ことを期待する」の意味ですが、「しなければだめだよ」という気持ちも含まれます。

We are paying for your schooling, so we expect you to get good grades as well.

「私たちは、学費を払ってやっているのだから、いい成績を取ることも期待しているのよ」

ここまでは確かに問題がなかったのですが、次、

expect to (do) 「(する) つもりである」

I expect to be back on Saturday. 「私は土曜日には帰るつもり」

を見たらびっくりしました。何で「予期」「予想」「期待」などが突然「つもり」になっちゃったのか、わけがわかりません。ひょっとするとうちの辞書だけかなと思いましたが、そうでもないのです。ほかの英和辞典も同

じように「(する) つもりである」と書いてあって、似ているような例も載せています。

I expect to leave tomorrow. 「明日出発するつもり」

I expected to see Mt. Fuji but the weather was terrible.

「富士山を見るつもりだったがお天気がひどかった」

何で「予期」「予想」「期待」などが突然「つもり」になっちゃったのかと、編集の方に尋ねてみましたが、「いや、わからないけど、そうなっている」と言うのです。

よくあることですが、その語を初めて辞書に載せるとき意味を少しでも間違えたら、そのあとその間違った意味が永遠と伝え続けられることになってしまいます。expect to (do)もそうした例の一つです。「(する) つもりである」の意味を、だれが考えたか知りませんが、そうではなくて、自分の未来の行動についての「予期」、それまでに何もなかったら「おそらくそうなるだろう」と、expect の意味そのままなのです。

I expect to attend the meeting on Saturday.

「(何もなければ) 土曜日の会合に出席する (と思う)」

I expect to be back on Saturday.

「(すべてうまくいけば) 土曜日に帰ってくるよ、きっと」

I expect to leave tomorrow. 「(今のところ) 明日出発することになる」

I expected to see Mt. Fuji but the weather was terrible.

「富士山が見えるのを期待していたが、お天気がひどかった」

8-4. 本当の「つもり」

さて、「つもり」の意味を表す英語は、残りのplan・intend・mean ですが、それでもそれぞれがやや異なります。いちばん使わないmean から話

テルキ デイブ

しましょう。

mean to (do) は「(する) つもり」という意味ですが、将来の行動を表すにはあまり使いません。たとえば、「大学を卒業してから、オーストラリアに移住するつもりだ」を英語では I mean to move to Australia after graduating from the university. と言えることは言えますが、plan to (do) か intend to (do) のほうを使ったほうが普通。その代わりに mean to (do) を使用するいくつかの決まった言い方があります。

I don't mean to bother [interrupt / question / contradict / insult] you, but...

「おじゃま [割り込み/疑問視/反論/侮辱] するつもりはないのですが…」

Do you mean to say [tell me] that...? 「…とでも言うつもりですか？」

What do you mean (by) barging in like this?

「このようにどやどや入り込んできて、いったい何のつもりだよ？」

将来の行動よりも、過去の「(する) つもりだった (が)」「(する) つもりはなかった (が)」の使用が多いのです。

I meant to go to the meeting, but something came up at work.

「会合に行くつもりだったけど、会社で用事が出来ちゃって」

I meant to call you sooner, but I was busy.

「もっと早く電話するつもりだったけど、忙しかった」

I never meant to hurt her like that.

「あのように彼女を傷つけるつもりは全然なかったけれども」

I never meant to tell anyone. It just slipped out.

「人に言うつもりはなかったの。つい漏れてしまったわ」

将来の「(する) つもり」を英語で表す場合、plan to (do) か intend to (do) を用いますが、plan のほうは「計画」として言うときに、intend は「どうしても」「かならず」の気持ちをやや強めたいときに用います。

I plan to spend three weeks in Paris this summer.

「夏、三週間パリに滞在するつもり [と計画している／と考えている]」

I intend to spend three weeks in Paris this summer no matter what my parents say.

「親が何を言おうと、夏は三週間パリに滞在するつもりなんだ」

一言でまとめると、英語の未来時制 will do・be going to do を「するつもり」「するだろう」と解釈するのはうそ。「するつもり」を表すならば、plan to do・intend to do を使います。

9. 謎のat とin

9-1. 「狭い」と「広い」

場所を示すat とin の違いや使い分けがよくわからない方がいるのではないかと思います。なら、英和辞典によく書かれているような解説を見ましょう。

at とin は英語の「機能語」の一つである「前置詞」であって、at は一点と考えられるような「狭い」範囲の地点について用いる。これに対して、多少とも「広がり」がある、「広い」範囲と考えられる場所についてはinを用いる。

I will be in Paris for three weeks.

「パリには三週間滞在する」(パリは「広い」範囲)

テルキ デイブ

I will be staying at the XXX Hotel.

「XXX ホテルに泊まる」(ホテルは「狭い」範囲)

いかにも文法学らしい解説なのです。「機能語」と言いながらも、at と in の機能については何も説明せずに、「前置詞」、つまり名詞・名詞句・代名詞の「前に置く語」だと、形のことしか言ってくれません。またこの「狭い」と「広い」という使い分けですが、いくら英英辞典 [⑪⑫] を調べても、そのような説明は見つかりません。なぜかと言うと、日本の英文法学者たちが独自で作りに上げた説明だからです。

さて、この説明ではat とin の使い分けが上手にできるようになるのでしょうか。たとえば、

The hydrogen atom has one proton at its center.

The hydrogen atom has one proton in its center.

という英文を日本語に訳すと、両方とも「水素の原子は真ん中に陽子が一つある」となりますが、原子の真ん中というのは、at を使う場合「狭い」、in を言う場合「広い」と想像して話をしているのでしょうか。また、I'll meet you at the library. というのも、I'll meet you in the library. というのも「図書館で会うよ」と言っているのですが、感じとしてはinのほうが、図書館の「中」と指定しているので、「狭い」。逆にat は中か外かは指定していないので、すくなくともin よりも「広がり」がある、「広い」範囲と考えられます。どちらにしても、図書館というものは、たとえat the library と言っても、「一点と考えられるような「狭い」範囲の地点」というイメージはないと思うのですが…。まして、I live at the foot of the mountain. の「山の麓」って、なんと「広がりがある」場所でしょう。

こういう英語もあります。Let's meet at the XXX Hotel in the lounge. この内容を普通日本語で言うと、「XXX ホテルのラウンジで会いましょ

う」となります。しかしこの英文について「狭い」「広い」の解説を当ててみると、ホテルは「狭い一点」と言っているのに、その一点の中に「広い」「広がりがある」ラウンジがある、というイメージになります。英語のネイティブスピーカーは本当にそのように想像して…at the hotel in the loungeと言っているのでしょうか。

このように「狭い」と「広い」の解説についてはいろいろな納得しにくい疑問が出てきます。それに対して、「実際の広さ」ではなくて、話し手がある場その場で「感じる広さ」、というような説明を付け加えている辞典もあります。しかしそんなことを言ったら、at とin の解説をゼロに戻してしまう感じがします。それより、もう一つの例を見ましょう。

Taro sat at his desk. と言うと、タロウが机に向かって椅子に座っていると想像します。しかしこの文章を言う前に、さあ、ここは「狭い」範囲の一点なのか、それとも「広がりがある」「広い」範囲の場所なのかを考えて、「やっぱり狭い範囲だから、at を使おう」などと、まさか英語のネイティブスピーカーはそんなことを考えませんよ。逆の場合も考えられます。「やっぱり広がりがある場所だな」と定め、英和辞典の説明に従って、Taro sat in his desk. と言ってご覧。タロウのやっていることが全く違うのではないのでしょうか。この場合のat とin はどう見ても、日本の英文法学者たちが考えた「狭い」と「広い」とは何の関係もないのです。

では、in とat の違いは何なのでしょう。これを探るためには、一歩戻って「前置詞」というものをもう一度考える必要があります。

9-2. その場を描く

英語のいわゆる「前置詞」はat とin のほかには、above・by・from・near・on・to・under・in front of・next to・on top of など山ほどあります [⑬では最もよく使われるものを61個取り上げている]。英文法では「名詞・代名詞の前に置く」というように説明していますが、人が話をするときは、「名詞」とか「前置詞」とか「あの語をこの語の前に置く」など、文法用

テルキ デイブ

語みたいなのが一切頭にはないのです。話をしている物事・事柄がどうなっているとしか考えていないのです。そしてat・in・above・byなどの語は言っているものや場所についての情報を相手に伝えるのです。どんな情報かという、大まかに三つに分けられます。

- (a) そのものと他の物との位置などの関係を表す

There is a book on the table.

「テーブルの上に本がある」(テーブルに乗っている)

There is a light above the table.

「テーブルの上にライトがある」(乗っていない)

I bought a book of poems. 「詩の本を買った」

- (b) 動作などの場所・方向・方法などを表す

The dog sat on the table. 「犬はテーブルの上に座った」

The dog jumped over the table. 「犬はテーブルの上を跳び越えた」

Here is a present from me to you.

「はい、私からあなたへのプレゼントよ」

- (c) そのもや場所の形・形態・有様

He sat on the chair. 「椅子に座った」(普通の椅子)

He sat in the chair. 「椅子に座った」(肘掛け椅子)

要するに、前置詞はその場がどうなっているかを、相手もよく見えるように、はっきり描いてくれる言葉なのです。日本語では「に」「で」「へ」「と」「の」などの助詞を使いますが、英語の前置詞のようにその場をはっきり描くためには、適切な動詞を要する場合があります。たとえば、I put the painting on the wall. は「絵画を壁に掛けた」と言っていますが、I put the painting against the wall. は「絵画を壁に立てかけた」ことを表

しています。

9-3. at とin を改めて

さて、謎のat とinの違いですが、それぞれの描くもの・場所の「形」「形態」「有様」がまるっきり違います。in A と言うと、Aは枠や容器など、何らかの「空間」を囲むものであって、in は「その中」を表しています。

There is a cat in the box [yard / photograph].

「箱 [庭/写真] の中には猫がいる」

Let's meet in the library [hotel lounge].

「図書館 [ホテルのラウンジ] (の中) で会おうよ」

How long were you in Paris [the meeting / the hospital / the drama club]?

「パリ [会議/病院/演劇部] にはどのくらいいたの？」

There are 25 students in English Composition class.

「英作文のクラスには学生が25人いる」

Only one in ten will pass. 「10人中たった一人しか合格しない」

Many of the world's people live in poverty.

「世界の多くの人々は貧困 (の状態の中) で暮らしている」

I can't forget the look in his eyes as he came in the door.

「彼がドアから入ってきたときのその目つきが忘れられないんだ」

They were strolling in the park [rain / moonlight].

「彼らは公園 [雨/月光] の中を散歩していた」

I heard they lost everything in the earthquake [fire / flood].

「地震 [火事/洪水] (の中) で彼らは何もかもなくしたと聞いている」

Tell what you think in class [an essay / 50 words or less].

「考えていることを授業 [エッセイ/50語以内] で言いなさい」

in はそれほど難しくないし、どの英和辞典もそれなりにうまく説明して

テルキ デイブ

います。問題はat のほうです。at の示すもの・場所はどうなのでしょう。

at B と言うと、B は「表札」のように考えて、そしてat はその表札が指定する「ところに／で」を表すのです。たとえば、Wait for me in the car. と言うと、車は容器で、in はその中、つまり「車の中で待っていてね」と言っています。これに対して、Wait for me at the car. の場合は、車は、容器ではなくて、表札であって、その表札が示す場所、つまり「車のところで待っていてね」ということを言っています。「車のところ」とは、車の中でも周辺でも、という意味です。at の使用例を見ましょう。

I live at 123 Long Street [the foot of the mountain].

「私は123ロングストリート [山の麓] に住んでいる」

Sue is a junior at ABC University. 「スーはABC 大学の三年生です」

We should have changed trains at Ueno.

「上野で乗り換えるべきだったよ」

Who is that at the door? 「玄関にいるのは誰だい」

Turn right at the next corner [the second stoplight].

「次の角 [二つ目の信号] で右に曲がって」

Rob is always at the head of his class.

「ロブは常にクラスの首席 [先頭] にいる」

Everyone was surprised at the news of her wedding.

「彼女の結婚の知らせを受けたところ、みんな驚いたわ」

ある動作の場合は、「表札」よりも「的」と考えたほうがいいのかもありません。

Paul looked [pointed / laughed] at himself in the mirror.

「ポールは鏡に映っている自分を見た [指さした／笑った]」

Tom threw a stone at a car [a dog / a window].

「トムは車〔犬／窓〕を狙って石を投げた」

10. 英単語の習得と意味をまとめて

10-1. 英単語の習得

よくあるやり方です。英単語の「意味」を英和辞典などで、日本語の訳語として知る。これを暗記しておけばばっちり。しかしこうしたやり方は、英単語を「習う」のではなく、英単語を「押さえる」と言って、あくまで英語の試験に通ることを目的としているやり方です。結果的には、英語を日本語として習うことになります。

それよりも、英語を英語として習うのであれば、やはり経験が必要です。経験とは、自分で会話や作文で実際に使ったり、会話や本などで使われているのを聞いたり読んだりすることです。使う、出会う経験が深ければ深いほど、その英単語の具体的に意味する内容がよくわかるようになります。

別の言い方をすれば、英和辞典に書かれたその単語の「意味」は、終着点ではなくて、その語との長い付き合いの始まりなのです。

10-2. 英単語の意味

英和辞典に記載された「意味」というのは、逆に深い経験を煮詰めて書き記されたものです。理想的には、科学の方法に従ってやるものです。つまり、データ（使用例など）を集めて、分析し、結論（その語の意味）を出します。しかしながら、この結論、つまり意味は、仮説でもあります。常に新しいデータを集め、新たに分析を行い、より良い説明、さらに簡明な意味を常に求めるのです。これが辞典編集のお仕事というものです。

ところがあいにく、理想と現実とが異なることがあります。たとえば、please = 「どうぞ」で見たように、データが不十分なところから結論、つまり意味を決めることがあります。あるいは、データが十分にあるにも

かかわらず、at とin の「狭い」と「広い」の説明のように、その分析が誤っている場合もあります。または、データや分析とは無関係に、ただ勝手に意味を決めつけることだってあります。英語の未来時制のwill (do) と be going to (do) の意味を「(する) だろう」「(する) つもり」にしたのがその一例だったのです。また、英語のidentical について、「あの時・場合のものとの時・場合のもの『まったく同一物である』ことを示す」という説明も、英和辞典の勝手な作り話だったんですね。

英和辞典はよりいい方へと少しずつ進化していくことは間違いありません。しかし同時に、「今まで通り」という圧力も強い。たとえばalmost = 「ほとんど」の場合、データをちらっと見ただけで（私は文章一つで）これが間違っているぞとわかりますよ。なのに、ほとんどの英和辞典は新訂版を発行するたびにこの間違いを繰り返してきています。編集者が悪いだけではなく、今までとあまり変わったことをやると、読者からクレームが来ます。読者というと、多くは英語の先生で、彼らには自分が教わった、今教えているのと異なっているものをなかなか受け入れがたいのです。自分が間違っていたと認めることとなるからでしょう。彼らにとって英語は、生きている言葉よりも、学問。つまり、教室で固定された内容を生徒に伝え、生徒は試験の時にその内容を繰り返せばいい、という世界です。英和辞典でよりいい説明を求めることはそうした世界に立ち向かうことでもあります。

私はもう英和辞典編集の仕事をやっていませんが、翻訳などで英和辞典を引くことが時々あります。すると、そこちょっと直したいなと思うところがよく目につきます。わざわざ調べたわけではないのですが、いちばんよく使う英和辞典には少なくとも百か所ぐらい赤ペンのチェックを入れていると思います。言葉と付き合うのは、際限のない楽しみです。

【参考文献】

- ① 古藤晃、「大学入試受かる基礎英単語・熟語 ソクラテス入門 1299」、学習研究社、1996年
- ② テルキ デイブ、「意味を伝えるための英語発音 — 『ここが重要』」、白鷗大学教育学部論集、2015年、第9巻第1号、pp. 245-270
- ③ 「ライトハウス英和辞典」、研究社、第4版、2002年
- ④ Parrott, Martin, GRAMMAR FOR ENGLISH LANGUAGE TEACHERS, Cambridge University Press, 11th Printing, 2006
- ⑤ テルキ デイブ、「過去、今、未来の話を英語で」、白鷗大学教育学部論集、2016年、第10巻第1号、pp. 205-242
- ⑥ 「ウィズダム英和辞典」、三省堂、2003年
- ⑦ 「Eゲイト英和辞典」、Benesse、2003年
- ⑧ 「スーパー・アンカー英和辞典」、学習研究社、第2版、2001年
- ⑨ 「アンカーコズミカ英和辞典」、学習研究社、2007年
- ⑩ 「シニア英和辞典」、旺文社、新訂版、1976年
- ⑪ MACMILLAN ENGLISH DICTIONARY, Macmillan Education, 2002
- ⑫ LONGMAN DICTIONARY OF CONTEMPORARY ENGLISH, Pearson Education Limited, 2003
- ⑬ Yates, Jean, THE INS AND OUTS OF PREPOSITIONS, Barron's Educational Series, Inc., 1999

(本学教育学部非常勤講師)